

令和7年度

チャイルドハウス半田自己評価表

【評価 A：大変良い B：良い C：一部検討が必要 D：改善を要する】

実施日：令和8年3月

項目	内容	評価	特記事項
保育基本理念と保育実践	園の保育方針、保育目標を職員が把握できている	B	保育方針の理解や実践へのつなげ方に、職員間で差が見られた。新年度会議や職員会議、園内研修を通して共通理解を深め、それぞれが自分の言葉で保育方針を捉え直す機会をつくり、日々の保育により具体的に反映していく。
	子ども一人ひとりの人格を尊重し、主体性を大切にしていた保育をしている	C	
	各年齢の発達段階を理解し、それぞれの年齢や個々に留意した指導計画を作成している	B	
	指導計画に基づく実践を振り返り、評価し、その結果に基づき、保育の改善をしている	B	
	子どもが主体となって活動できる環境が整備されている	C	
	行事については、過去の評価や反省を反映した計画実施をしている	A	
家庭及び地域との連携・子育て支援	コドモンを利用して園の様子を伝えたり家庭での様子を伝えてもらったりし連携を図っている	A	コドモンでの発信は定着してきたものの、保護者アンケートでは、園での生活の様子の伝わり方や発信内容のバランスに見直しの必要性が見られた。今後は、連絡帳や写真、各種発信を通して子どもたちの姿がより伝わりやすくなるよう工夫していく。日々の様子を丁寧に届けることで、家庭との連携をさらに深めていく。
	懇談会や個別面談、個別相談を実施している	B	
	保護者アンケートを行い保護者のニーズ・意向の把握を行っている	A	
	地域の保護者に対する子育て支援をしている (子ども・子育てに関する相談・一時預かり等)	C	
	地域における連携・交流をしている (自治体・関係機関・小学校・他園との連携等)	C	
保育の実施運営・組織	各種会議を適切かつ効率的に進めており、会議録を全職員に周知し、職員間の共通理解に努めている	B	会議が情報共有で終わる場面や、決定事項が実践や振り返りにつながりにくい状況が見られた。訓練では実際の場면을想定した対応力に課題があり、ヒヤリハットの共有にもばらつきが見られた。研修や園内研究についても、学びの共有や継続性に課題が見られた。 これらを踏まえ、「決める→やる→振り返る」の流れを明確にし、学びや気づきを職員全体で共有していく。実践的な訓練やヒヤリハットの共有を強化し、安全への意識を高めていく。園内研究は年間を通して一貫したテーマで取り組み、保育の質の向上に努めていく。
	職員間で報告・連絡・相談の体制が機能している	B	
	園児や保護者に関する個人情報適切に取り扱い、守秘義務の遵守を全員に周知している	A	
	苦情受付窓口を設置し、苦情解決体制が整っている	A	
	安全計画に基づいて、避難訓練、不審者訓練、交通安全指導等を行っている	B	
	事故を防ぐため、事故防止チェックリストや室内外の安全点検を行い、危機管理意識を高めている	B	
	職員の資質向上のため、園外研修、法人内研修の機会が確保されている	B	
保育課題への共通理解や協働性を高め、園全体としての保育の質の向上にむけ、園内研究を行っている	C		